

世界医師会 理事会

Junior Doctors Network Meeting Report

2014年4月27日

目次

1. Junior Doctors Network Meeting 総括
2. WMA-JDN での国立国際医療センター施設見学と海外留学プログラムの立ち上げ
3. 参加者の感想

1. Junior Doctors Network Meeting 総括

代表 阿部計大

2014年4月24日から26日にかけて世界医師会の理事会がホテル日航東京で開かれました。それに合わせて4月27日（日）にWorld Medical Association Junior Doctors Network (WMA-JDN) 会議を日本がホスト国として行いました。

今回のWMA-JDN会議の主な目的は2013年10月に阿部、三島が参加したブラジル・フォルタレザでの世界医師会総会で話し合われた組織力の向上を行うことと、各国のメンバーの現状を共有することでした。

Japan Medical Association Junior Doctors Network (JMA-JDN) として今回のWMA-JDN会議での目的は、通常は業務で休みがとれず海外での会議に参加出来ないJMA-JDNメンバーにもご参加頂き、世界の若手医師と交流して、何かを感じて頂くことでした。そのために当初理事会に先駆けて行われるはずであったWMA-JDN会議を週末の4月27日（日）に変更しました。結果として多忙な中、JMA-JDNより計7名が参加し、病院見学ツアーにもさらに1名が参加されました。後述のメンバーの感想からは成功であったと考えられます。日本医師会の皆様方の非常に暖かく細やかなサポートと副代表外務三島先生の素晴らしい働きにより、WMA-JDN会議の日時場所の調整、会場確保、ファシリティーなどから、若手医師同士の交流イベント、日本の病院見学ツアーまで行うことが出来ました。各国の若手医師は大変喜ばれており、心から感謝を表現されておりました。

WMA-JDN会議の内容で特筆すべきは、WMAの役員の先生方から若手医師に向けて様々な観点からのメッセージを直接頂けたことは貴重な経験でした。また、ホスト国のJMAより石井正三先生が日本の災害医療についてレクチャーを行って頂きました。地震や津波、放射線被害というタイムリーな話題であり各国の若手医師も興味を持って聴いており質問も多く出ました。特にJapan Medical Association Team (JMAT) が短期間で入れ替わりながら被災地に継続的なケアを提供していくシステムについては世界にとって刺激的であったようです。また、各国の若手医師の現状についてもプレゼンテーションを行い共有しました。日本からもJMA-JDNの組織概要を紹介し、林先生より日本のPhysician Well-beingに関する論文をレビューした結果について説明しました。予想通り多くの質問がみられ、各国からは論文や数字には出てこない若手医師の労働環境の実態について共有する機会を作ることが出来ました。また、女性医師の妊娠出産時のサポート体制が各国であまりに違うことにまで議論は及びました。

そして、今回の会議の中でアジア・太平洋地域のJDN発展を考え、韓国より日本との間で短期の交換留学を行う提案が為されました。また、ブラジルからも日本との間で交換留学を行いたい旨の提案があり、今後詳細を話し合っていく方針としました。医師としての資格の問題や金額、安全の問題などはあるものの、若手医師の交流のためには良い機会と思われる。世界で初めての試みではあり、今後JMAとご相談させて頂きながら継続性を考慮して進めていく必要があると思われる。

また、組織としての WMA-JDN の現状は前回のブラジル・フォルタレザの世界医師会総会時と何ら進歩はないように思われました。理念はあるものの若手医師の定義や会員の定義、組織構造、役員選挙の方法に関しても曖昧なままであり、それらの必要性や重要性は全体で共有できているものの、Working Group の立ち上げや責任者の不在、タスク管理が出来ていないことで彼らは日常業務に忙殺されているものと思われました。また、4年間余りに渡ってこの状態が続いているため組織の構造に問題があると思われました。それでも今回は Membership に関する Working Group が立ち上がることになり、JMA-JDN からも参加者を出す方針としました。今後、WMA-JDN の役員へも積極的に関与し、日本からも立候補していく必要があるだろうと思います。

今回の会議を終えて JMA-JDN は4つのことを併行して行っていきたいと考えます。1つ目は WMA-JDN やアジア・太平洋地域との良好な関係をさらに築くための足がかりとして韓国とブラジルとの交換留学の実現を目指すことです。そして、WMA-JDN の会議にはなるべく同じメンバーを輩出して、Working Group に関しても積極的に参加して存在感を増していく必要があります。2つ目は Annual Survey Project を少しずつ進めていくことです。今回の会議でも Physician Well-being については各国熱い思いが聴かれました。Survey を行っているカナダを中心とした国々と連携して論文作成を実現したいと考えます。3つ目としては JMA-JDN の日本総会のような形で、専門科を問わず若手医師が興味を持つようなセミナーやワークショップを提供できるイベントを企画・実行をしていくことが必要です。WMA-JDN の中には既存の組織が参加していることが多いですが、トルコやナイジェリアでは日本と同様に新しく組織を立ち上げている例があります。国内での認知度を広め、より多くの国内の若手医師に機会を与えるためには起爆剤となるイベントを催すことが必要と考えられます。そして、4つ目としては JMA-JDN の足元をしっかりと固めるためにも、組織理念や構造、定款を検討し続けることが必要と考えます。

最後に、いつもこのような貴重な機会をお与え下さる石井先生、日本医師会国際課の皆様、国際保健検討委員会、若手医師・医学生分科委員会の諸先生方へ、心より感謝申し上げます。そして、今後も JMA-JDN の仲間達と共に「日本中の若手医師が公衆衛生や健康施策分野の活動が出来るプラットフォーム」を目指していきたいと思います。

2. WMA-JDN での国立国際医療センター施設見学と海外留学プログラムの立ち上げ

副代表外務 三島 千明

副代表として、東京理事会と併せて行われた JDN ミーティングに参加する機会を頂きました。また JDN ミーティングの日本側の実行委員として期間中に日本の医療機関の施設見学とソーシャルアクティビティを開催したことを報告いたします。また、最後に今後の展望として留学プログラムの企画について紹介いたします。

4月25日に国内外のJDNメンバーの計9名で国立国際医療センターの国際感染症センターを視察しました。センターはSARS 発生を契機に平成16年10月1日に設立され、国際感染症対策室、トラベルクリニック、感染症内科の3部門で構成されている。DCCの医師らからのレクチャーがあり、日本における臨床感染症のclinical referral centerとして機能し、感染症領域の医療従事者へのトレーニング、感染症対策における情報提供、研究を行っていることが説明され、また併設されている特別感染症病棟の見学を行いました。(写真1)

それらのレクチャーの後、JDNメンバー同士で、各国の感染症対策、予防接種制度、また新興・再興感染症の報告システムについて意見交換を行いました。それぞれの国の異なる制度、社会的な背景の違いを共有し、ディスカッションしたことは、大変貴重で興味深い経験となりました。また、WMA会議中、メンバーの有志で居酒屋やカラオケで、交流会を企画しました。世界各国から普段はオンラインミーティングなどでの交流が中心でしたが、初めて実際に会うメンバー同士が、各国の音楽を共に楽しみ、食事を共にすることで、とてもリラックスした雰囲気を通り越し、お互いの懇親を深めることができました。様々な言語の音楽が入り交じり、言葉は分からなくとも共に歌い、楽しむユニークな経験はJDNならではの魅力的な機会と感じました。また、WMA本部のシニアのメンバーも加わり、国や、世代を超えての対話を促進することができました。その他にもJMAの企画する日本の観光では東京タワーや、浅草、増上寺を散策し、日本の快適な公共交通機関、日本の食、日本人のホスピタリティを経験してもらえたのではと思います。JDNミーティング前に、これらのイベントを開催することで、参加者一人一人の考えや背景を知る機会ができ、JDNミーティングでの議論を円滑にすること、新しいアイデアがオフラインの会話から生まれること、の一助になったと感じています。

今回の成果の1つとして、こういった対話の中で今回のJDNミーティングにおいて、日本側とブラジル、韓国との留学プログラムのアイデアも生まれ、プロジェクトとして動き出すことになったことが挙げられます。具体的な内容、日程などは検討中であるが、日本とブラジルや韓国の若手医師がお互いの臨床、研究、行政などの現場で研修し、共に学びあう機会を提供していきたいと考えています。専門科や背景の垣根を超え、若手として交流し、日本と世界の若手医師が国際ネットワークの場として利用してもらいたいと考えています。そのための課題として、まずはJMA-JDNの組織体制を整え、議論を深めること、また幅広い日本の若手医師に参加してもらうことと感じています。

今回、東京で深まったJDNの友情と絆を今後の活動の発展に寄与し、このようなソーシャルイベントはJDNミーティングの一貫として今後も企画されることを期待しています。このような機会に参加させて頂き、また協力して下さったWMA, JMA, JDNメンバーに深く感謝いたします。

3. 参加者の感想

柴田綾子

業務の関係で最終日の JDN ミーティングしか参加できませんでしたが、JDN ミーティングで色々な国のレジデントの話が聞けて非常に良かったです。特に各国の労働環境関連の規制について比較できたり、女性医師に対する社会のサポートについて実際の話聞いたことは、今後の活動に大変参考になりました。ドイツでは女性医師が半分近くあり、女性医師が産休を取るのは当たり前、男性医師でも積極的に取れるような制度になっていて大変驚きました！

今後も各国の若手医師で交流を深め、お互いの良い制度や活動をシェアしていけるように頑張りたいと思いました。このような貴重な場に参加する機会を頂き、本当にありがとうございました。

座光寺 正裕

世界の JDN はそれぞれに設立の背景も違い、活動の目的も異なります。産声を上げたばかりで2, 3人で細々と活動を立ち上げているところから、すでに成熟した組織として経験を積んでいるところまで、玉石混交というのが実情です。しかし、こうした多様性こそ世界の JDN が協同する魅力に違いありません。事前に議題を整理したり、もう少し時間管理をしっかりして枠組みを整えることで、こうした多様性から引き出せるものがぐっと厚みを増すだろうと思います。阿部代表が普段の日本 JDN のオンライン会議で当然のように行ってくれている議題整理、時間・タスク管理がいかに優れていたか、今回の世界 JDN 会議を通じてよく分かりました。ダーバンでの会議がより充実したものになるよう、日本人の緻密さを活かして、準備に関わっていければと思います。また、三島副代表が事務的な調整から朝3時のカラオケのお相手まで、文字通り体を張って対応くださったことに、あらためて敬意を表します。ありがとうございました。

塩田 勉

これまで国内での活動のみの参加でしたが、初めて海外のメンバーと直接話すことができ、各国の若手医師の状況もそれぞれ知ることができたので、非常に有意義な会議でした。これを踏まえ、再度日本としてできることを考え、少しずつ形にしていけたらよいと思います。この度は、このような機会を与えてくださった医師会の先生方をはじめ、関係者の方々に感謝いたします。ありがとうございました。

三島千明

今回は JMA-JDN が立ち上がり間もない中での東京での JDN Meeting 開催となり、準備は手探りの状態でした。横倉会長、石井先生、能登課長はじめとした国際課の皆様のおかげで

サポートのもと、準備や参加して下さった JDN メンバーの皆様のおかげで、無事に開催することができましたことに、深く感謝申し上げます。

今回は JDN Meeting 前に日本側からのコンテンツとして、国立国際医療センターへの施設見学や、Social program を企画することができました。非常に好評で、特にカラオケパーティーは若手と各国のシニアの先生方双方が参加し、大変に盛り上がりました。オフラインでの交流が深まり、JDN 本部のメンバーと、特にアジアの国々との対話が増えました。同じ時間を過ごすこと、コミュニケーションを深めて相手側の状況を深く知ることの重要性を感じました。その中で、ブラジルや韓国から交換留学を見据えた交流の提案があり、今後の JMA-JDN の幅広い活動の可能性を感じさせました。JDN Meeting では阿部先生、林先生のプレゼンテーションは日本の労働環境の状況を客観的に分かりやすく示し、また海外からの質問やディスカッションにつながり、非常によかったと思います。石井先生には災害医療について非常に興味深いレクチャーがあり、Meeting 内容がより充実しました。

課題としては、JDN 全体の structure の未分化な状態が目立ち、議論もそちらに集中した点だと思います。また、JDN Meeting を最終日に設定したため、不参加の JDN メンバーや、事前にディスカッションが行われていたため、当日はやや盛り上がりにくい雰囲気ではありました。また日本の JDN メンバーもそれぞれ勤務の関係で参加が難しい面があり、活動の継続性をいかに持ちやすくするかを検討する必要があると思います。

施設見学については、当初は訪問診療を企画していましたが交通事情のためにやむをえず断念となりました。非常に希望もありましたので、今後日本での何かしらの活動の際には再度検討したいと思っています。

各国の若手医師の団体の活動は非常にしっかりしたものであり、それゆえにそれらを世界の JDN として全体を結びつける難しさは感じました。しかし、日本の国内外それぞれの目線で、日本がやるべきことは少しずつ見えてきていると思います。阿部代表のもと、日本の JDN の体制づくりを進め、日本の若手医師が国内外でのネットワークを持つ場として、JMA-JDN が日本の若手医師の中でニーズある存在になること、まずはその体制作りには微力ながら貢献していければと思っています。そして次回南アフリカでの JDN Meeting に向けて、日本が JDN に積極的に発信していけるように、副代表として取り組んで参りたいと思います。今回は、このような機会を頂いたこと、また準備について皆様のご協力を本当にありがとうございました。

林伸宇

東京ミーティング、お疲れさまでした。計 3 日間参加し大変貴重な経験をすることができました。横倉会長、石井先生、能登課長をはじめとした国際課の皆様にご感謝申し上げます。各国の JDN との交流を促進して下さった、中村先生、近藤先生、ありがとうございました。今回は残念ながら実現ができませんでしたが、往診先のクリニックを御紹介く

ださった丸山先生、ありがとうございました。

JDNのみなさまと東京ミーティングを準備、開催できたことを嬉しく思います。ありがとうございました。特に阿部先生、三島先生については、座光寺先生が既に述べられたように、中心になってJDNをマネジメントしてくださり、とても感謝しております。世界のJDNメンバーが笑顔で最後までいるのを見て、日本の「おもてなし」を十分伝えられた4日間だったと思いました。

会期中、日本が世界の各国から期待され、信頼されていることをひしひしと感じました。日本の若手医師についての研究を発表した際には、単なる発表に終わることなく、日本が各国の現状についてディスカッションを促せたのは、有意義だったと思います。日本が、WMA-JDNミーティングに継続的に参加することの重要性を感じました。今回出会った各国の医師との縁を大切に、可能であれば南アフリカでのミーティングに私も参加して、日本のプレゼンスを高め、また、世界の人々がより健康に過ごせるよう、貢献したいと思っています。